

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079500114		
法人名	有限会社 良正会		
事業所名	グループホーム 糸田苑		
所在地	〒822-1325 福岡県田川郡糸田町1698-1	TEL	0947-26-4515
自己評価作成日	平成 23年9月26日	評価結果確定日	平成23年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月、違った外出外食の計画を立て、苑外での気分転換を図る様心がけている。また、利用者の体調管理においても、24時間訪問ナースや訪問Drとも連携している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成 23年10月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

糸田苑は、山の緑と自然環境の中の住宅地に、特養と隣接した4階建て2、3階部分で、3ユニットのグループホームである。「利用者が居心地良く、自分らしく、尊厳に守られ、充実した日々を送れるよう支援していく」という理念を掲げ、職員全員が理解し、取り組む姿は、利用者の心を開かせ、一日一日を大切に過ごす暮らしに繋げ、家族の評価は高いものがある。年に一回の家族会は、8割の出席率で盛り上がり、懇親会では家族同士の心配事や、悩みを話し合い、ホームに要望を提出し、課題解決の取り組みが始まっている。地域との関係は、清掃活動、敬老会、神幸祭、田植祭等に参加し、中学生職場体験を受入れ、活発な交流が始まっている。また、利用者の健康管理は、協力医やかかりつけ医、訪問看護師と情報を共有し、医療連携体制は万全の物がある。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に理念を読み上げ、常にスタッフ全員が、利用者様の事を考え、つとめている。スタッフ全員、常に心がけ理念を1つ1つクリアして行く。各階に、理念をみなさんの目に入る位置に貼り、家族の方にも知って頂く様、取り組んでいる。	事業所独自の理念を掲げ、朝礼時に職員全員で復唱し、常に利用者が自分らしく、日々を楽しく暮らせるように、支援するための理念を作成し、日々実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事が少ない為日常的な付き合いは難しいが、近隣の人とかかわれる時にはなるべく声をかけている。自治会、老人会等の交流はないが、行事や地域活動には積極的に参加する様にしている。	地域の敬老会や年3回の美化活動、神幸祭や御田植祭り等には、利用者と職員が一緒に参加し、地域の方々と交流している。また散歩に出かけた折には、お互いに声かけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の勉強会や毎日の朝礼時等に話し合い、また、案が出た時には、その都度取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議があった月には必ずスタッフ全員に内容を報告しサービス向上に向けて努めている。	2ヶ月毎に開催される運営推進会議は、ホームの状況や行事等を報告し、会議で出た意見を検討し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の苑だよりを発行している。	日常的に町の福祉課及び保護課の職員やケースワーカーとの連携があり協力関係を築いている。運営推進会議出席時に、苑だよりやホームの行事案内を手渡している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の勉強会や日々の業務の中で、職員同志声を掛け合い注意を払っている。	身体拘束をしない方針を貫くために研修を行い、言葉の虐待を含めて、職員同士で理解を深め、実践に向けた取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会や日々の業務の中で、職員同志声を掛け合い注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に施設長より説明をしている。	認知症についての研修で、権利擁護に関する制度の勉強会を行っている。現在制度利用者が1名おり、利用者、家族への説明は、入居時に施設長が説明し、理解を得ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	上司がすべて対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者さんとかかわりを持ち声を聞くようにしている。必要に応じて家族に連絡を取っている。また、毎月の苑だよりや交たいで個人に個人に苑だよりを送っている。2ヶ月に1度の推進委員会もしくは、面接の都度、受け入れ対応している。また、ご意見箱を設置している。	利用者との関わりや、面会時の家族への声かけを通して、悩みや不安・要望を表出する機会を設けている。運営推進会議での家族の意見や要望を聴き取り、出来るだけ運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会にて話し合いの場をもうけている。	月例のミーティングで職員全員で情報を共有している。また、職員の意見や要望を運営に反映出来るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットに必ず一人スタッフを置き対応できるように調整している。上司、または、スタッフ一人一人が配慮している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用においては上司の判断にて行い、現場では、個々の能力に応じて仕事に取り組んでいる。	職員の募集、採用は、年齢、性別の制限はなく、人物本意に採用している。また、職員が働きやすい環境を整備して、支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の勉強会にて取り組んでいる。	人権教育の外部研修に参加し、伝達講習を行い、勉強会で啓発活動に取り組んでいる。また、毎日唱和する事業所の理念は、利用者の尊厳を守り、人権を尊重する内容となっている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった計画を立て、また、研修を受ける機会をもうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホームと交流をもち意見の交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の納得のいくまでアセスメントをおこなっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の納得のいくまでアセスメントをおこなっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度、本人と家族が必要としているサービスを利用できるよう支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者と生活を共にし学び支えあう関係を築くようにし、常に会話を忘れない様にしてしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その都度、本人の状態や様子を伝え、悩み相談があった場合には、その都度受け入れ話し合う。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望すれば、その都度対応し交流が出来るよう努める。	入居前の老人会の知人や、隣接するデイサービスからの友人の訪問、馴染みの美容院や商店での買い物等、関係継続の支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくホールにてすごして頂き、他の利用者様たちとのコミュニケーションを図る。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡があった時には、その都度対応する。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思にそうよう、取り組んでいる。	常に利用者に寄り添い、声掛けや表情などから思いや意向の把握に努めている。また、意向の表出が困難になった場合でも、本人の希望に沿うように家族と相談しながら支援している。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所にあたり、家族、本人とよくアセスメントを行い、スタッフ全員がわかる様記録し把握に努めている。	
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残し、出来る事は自力で行っていただけるよう見守り、様子観察している。	
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に、本人の性格、状態を把握し、家族の意向も受け入れ、その人にあつた介護計画を作成している。	介護計画は、本人、家族の要望を大切にしながら、関係者と検討し、定期的に作成している。また、利用者の状態変化に合せ、家族と相談しながらその都度見直している。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その人の状態や様子を常に記録し注意すべき事は職員回覧簿に記入し職員全員が共通のケアを行う。	
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況又は要望にできるだけ応じりハビリを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアとの関わりはあるが、警察、消防等との関わりが少ない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態や希望に添った病院を受診できる様支援し又、往診の場合もきちんと協力病院を確保し連携を築いている。	利用者や家族の希望を取り入れ、かかりつけ医の受診を支援をしている。また、協力医と連携を図り、利用者の健康管理を支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問看護師やかかりつけの看護師とは気軽に相談でき、また、必要に応じてドクターとの連携を図る。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、定期的に病院へ訪問し、ドクターに話を聞き、早期退院に向けて相談をする。また、訪問看護を取り入れている為早期退院に向けても医療と連携が出来る。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、そのような方はおられませんが、終末期も苑ですこせる様、往診のドクター訪問看護の受け入れを行っている。	家族の要望で連携病院へ転院するケースが多く、現在、看取りの事例までは至っていないが、看取の指針を作成し、重度化対応や終末期対応に関する同意書を整備し、利用者の重度化に向けた支援体制が確立されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて取り組む。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフは各自消火器のある場所、使用方法は把握している。 また、年2回避難訓練を行っている。	昼夜を想定した、年2回の避難訓練を実施し、消火器、通報装置の使い方の訓練を実施し、非常災害に備えている。	年に1回は、消防署の指導を得て避難訓練の実施と、地域住民の協力体制の確立と避難訓練参加の呼びかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の理念でも読み上げ常にスタッフ全員が心がけ対応している。	事業所理念である“利用者の尊厳を守る”を柱として日常の介護に当たっている。利用者に対する声かけ場面でも、利用者一人ひとりの状態に合せ、その人らしさを大切に、対応している。また、個人情報の資料は、人目に触れない場所で保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉に出せない人には、毎日の日記から思いを読みとる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の会話や日記などから思いを読み取り、なるべく支援する様心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝洗顔し鏡に向かいブラッシングしたり自分好みの服に着替える。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月10日はリクエストメニューの日になっており、利用者の食べたいものを準備する。	利用者と職員と一緒に、野菜の皮むきや配膳、後片付けなどを行っている。利用者と職員が、同じテーブルで、楽しい和やかな雰囲気食欲増進に繋げる食事風景である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事を提供し又、水分もなるべく多く取れる様、飲めない人は補助食品使用。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、スタッフが介助し清潔を保つ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はなるべくトイレ誘導行い夜間は、必要に応じてオムツ使用する。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間は必要に応じてオムツを使用する利用者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、水分摂取は多めに心がけ食事にも注意する。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に毎日行っている。ただ入れない時もあるが、なるべく本人希望に添っている。	入浴日は毎日設定しているが、利用者のその日の希望に合わせて支援している。特殊な疾患のある場合には、時間帯を制限せず、利用者の希望に添った支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の使い慣れた毛布等を使用し休息し眠れない時には、スタッフがそばで対応する。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はすべて、苑が管理し体調管理を行う。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除洗濯食器の片付け等、自分の役割としてされており、伸び伸びとすごされる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出は無理だが、希望があった時には出来るだけ支援し、外食、買い物、散歩等に出かける。ただし天候にもよる。	家族の協力を得ながら、回転寿司での昼食、道の駅や大型スーパーでの買い物、バスハイク、日常的な散歩など、積極的に利用者の希望に沿った、外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額はもてないが、外出の時には、それぞれが買物したり自由に使う。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があったときには都度対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院の跡地を利用している為、壁が白くさみしいので、レクで利用者様とその季節にあったかざり作りをし季節を感じて頂く。	切り絵やちぎり絵など、利用者と職員合作の見事な作品が壁に飾られ、寛ぎの空間となっている。台所の調理の様子が、利用者の五感を刺激し、食欲増進に繋げ、利用者が居心地良く過ごせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ好きな場所で自由にすごし、ホールでは皆さんと一緒に楽しく過ごす。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使いなれたものを持ちこみ使用し、さみしくない環境にする。	ゆったりしたスペースの居室には、家族の協力で、利用者の使い慣れた好みの物が持ち込まれ、利用者が安心して、居心地良く暮らせるための配慮がされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故のない様、物の配置を常に考え、なるべく自由な行動をして頂く。		